

2017年度 病理診断支援報告

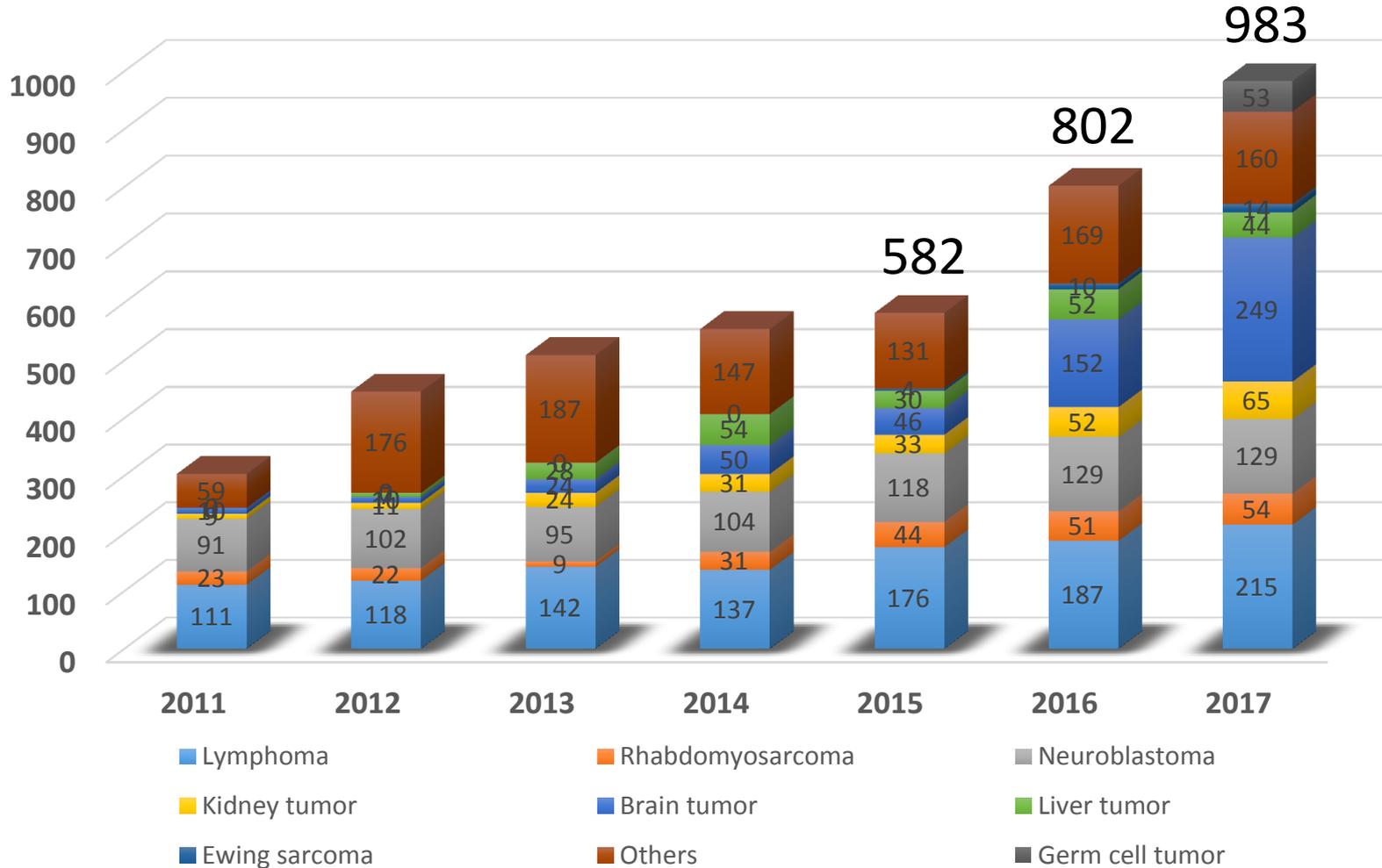
アドバイザーボード

2018.3.1

国立成育医療研究センター 病理診断部

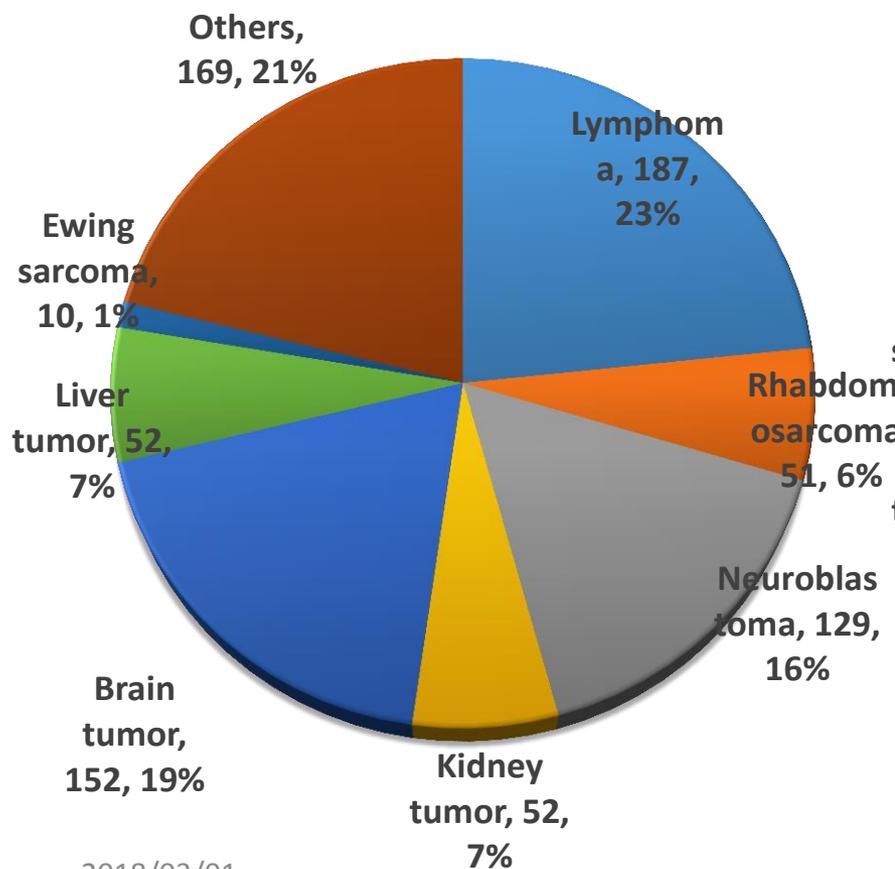
義岡 孝子

中央病理診断症例数の推移

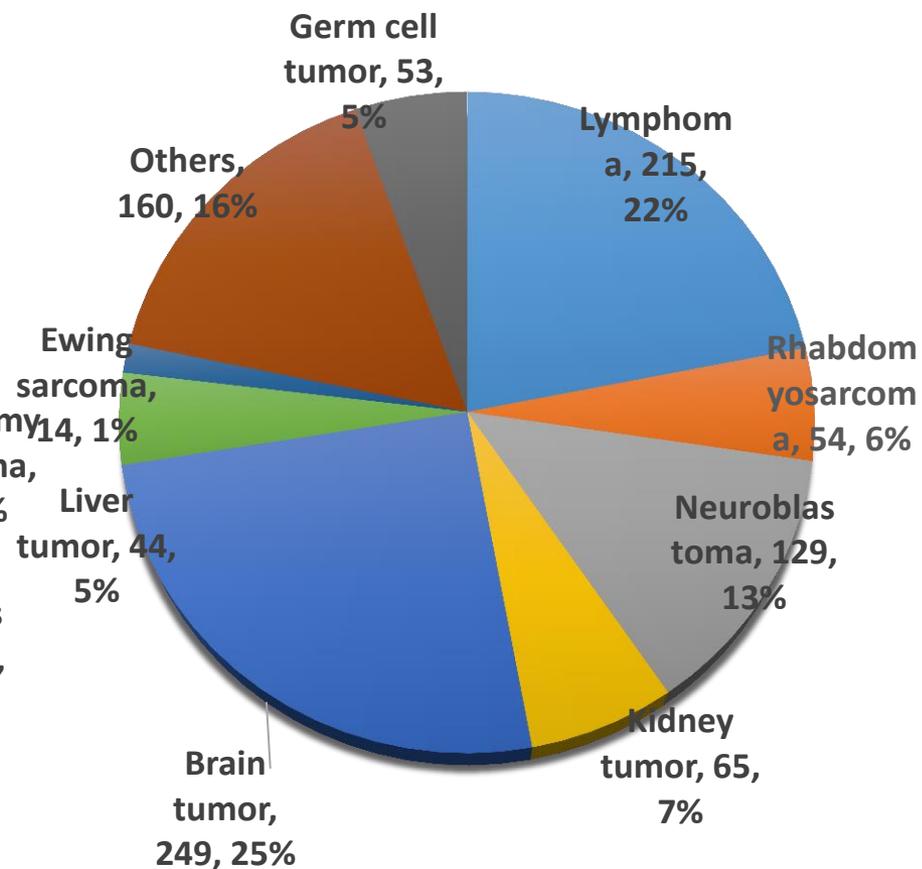


腫瘍グループ別 中央病理診断症例数

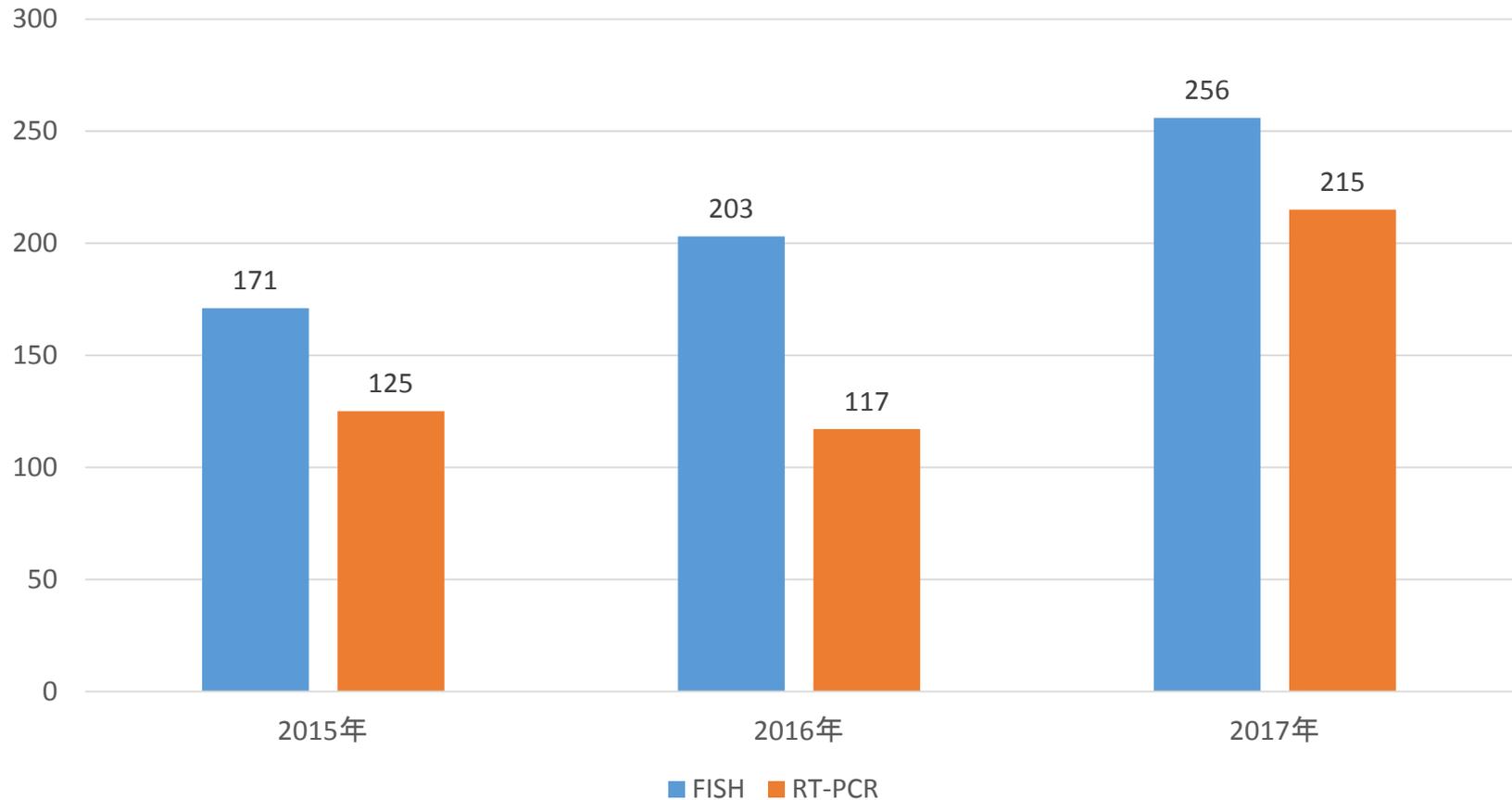
802 cases, 2016



983 cases, 2017



遺伝子検索件数 (FISH, RT-PCR)



TAT（固形腫瘍グループ別）

| 腫瘍グループ | TAT（平均） | TAT（中央値） |
|---------|---------|----------|
| 神経芽腫 | 15.6 | 12 |
| 横紋筋肉腫 | 46.2 | 47 |
| 腎腫瘍 | 24.7 | 17 |
| 脳腫瘍 | 45.2 | 47 |
| 肝腫瘍 | 35.7 | 28 |
| ユーイング肉腫 | 21.4 | 17 |
| 胚細胞腫瘍 | 20.0 | 20 |
| その他 | 23.0 | 20 |

問題点と取り組み

1. 診断支援に関わる小児腫瘍を専門とする病理医の育成
 - 小児専門病院勤務医師の他、大学病院に勤務する若手医師の診断チームへの参画.
2. 免疫染色、遺伝子検査に関わる技師の確保.
 - 若手技師の技術習得推進.
3. 遺伝子検査における国際標準規格の取得
 - 遺伝子検査における豊富な知識と優れた技術を有する技師の確保が望まれる.